令和５年度　杜の都のエコ・スクール活動報告書

学校番号	４４	学校名	仙台市立八本松小学校	校長名	田中　孝子

１　取組のタイトル，テーマ

広瀬川及びその河川敷を利用した学習

２　取組の紹介

本校は広瀬川の河川敷に隣接しています。校歌にも「山ははるかに　川はめぐり」と歌われており，河川敷・広瀬川・そこから見える山々は，八本松小学校のアイデンティティとなっています。

そこで，本校では川・川原を生かした学習に，継続的に取り組んでいます。１・２年生は２学期の生活科の学習の中で川付近を歩いたり，生き物の様子を調べたりしています。また，３・４年生は総合的な学習の一環としてそれぞれにテーマをもって自然の観察・調査を行っています。生き物クラブやテニスクラブなども，河原を活動場所にすることがあります。

また，持久走大会では，写真のように千代大橋を背景にして河原を走りました。同じ場所を毎年走ることで，その変化や光景に愛着を持ってくれることを期待しています。

３　取組の成果（児童生徒の変容）

川を楽しい場所と認識しており，そこにいる虫や魚の名前が児童の口から多く出ます。図画工作などの題材で広瀬川やそこに住む生物について表現する児童が多くいます。また，都心部であり，アパート・マンションに住む児童が大半ですが，草遊びや，虫の採集・飼育などを好む児童が多く，進んで学校で飼育を始める児童もいます。広瀬川・河川敷の景観を意識的に毎日ながめているため，紅葉や落葉など，自然の変化にはすぐ気づきます。このような児童が多い点は，広瀬川・河川敷を利用した学習の成果であると考えられます。

また，天候の変化を川の様子から察する児童もおり，「川が濁っているね。上流では雨だったのかな。」というように，科学的な見方・考え方に沿って広瀬川を見る児童もいます。広瀬川での学習をスタートにして，児童らの興味・関心が引き出されていることが分かります。成果としての視覚化が困難ではありますが，児童らが川の学習を起点に，その興味や意欲を様々な教科に広げていることは，現場で働く教職員に取っては明らかであり，今後もまた同様の学習を継続して行く予定でおります。